

次期ごみ処理施設

# ニューズレター

No7 2004.9

ごみ問題に関するシンポジウム

P2~3

ごみ処理検討委員会委員の募集

P4



# 未来のために考えようごみのこと」

## 高根沢会場（6月6日）

### 苦しみ喜びを分かち合う

宇都宮大学国際学部教授北島滋先生の循環型  
ゴミニティづくりのお話では、ごみ問題に必要な  
のは「お互いが助け合い、そして苦しみ喜び  
を分かち合える社会づくりが必要です。」皆さん  
真剣に聞き入っていました。



## 喜連川会場（6月13日）

### 自分たちのごみは最後まで責任を

宇都宮大学工学部教授今泉繁良先生の基調講  
演では「自分たちの出したごみは最後まで責任  
を持つという観点から、ごみ減量から処理施設  
までを、いろんな意見を聞き、バランス的なも  
のを考え、地域の発展と関連付けて考える必要  
がある。」とのお話を伺うことができました。



## 塩谷会場（6月20日）

### 意識を変えよう

宇都宮大学農学部教授酒井豊三郎先生から  
「全部資源に出来る。そういう意識を持ちま  
しょう。再利用する、再生すると言っても、自  
身の意識を変えなかったら、ダメです。」会場参  
加者の皆さん納得していました。



## 住民からの声

ごみ減量は難しいことではありません。まず、生ごみを堆肥化し、紙ごみ、びん、缶、プラスチック容器などを、的確にリサイクルに出せば、家庭ごみは92%減量できます。ちょっと手間をかければ、我が家同様ごみ出しは1ヶ月に一度で済みます。ごみ処理場から立ち上がる煙は、24時間松島の人達を苦しめています。買い物や、ごみを出すときこのことを思い出して、是非ごみ減量にトライしてください。



氏家町在住  
加藤 朋子さん



高根沢町在住  
佐間田 勝美さん

ごみは個人（人格）のレベル、家庭のレベル、社会のレベル、国家のレベルを発信している。また、ごみ問題は語るのではなく、実践して子や社会に伝播させる継続性が不可欠です。今後のごみ対策の基本は、幼児期からの環境教育であり、特に小中学生を対象としたカリキュラム作りが大切です。行政はもちろん企業も消費者も、子や孫に人が住めないような環境を残してはならない。

### ごみ処理検討 委員会委員の募集

塩谷広域行政組合では、次期ごみ処理施設整備事業に伴い整備していく、一般廃棄物処理計画の「ごみ処理基本計画」及び「廃棄物循環型社会基盤施設整備事業計画」について、素案等を検討するため、「ごみ処理検討委員会」の委員を募集します。

- 1 募集人数** 5名（各市町から1名）
- 2 募集期間** 平成16年9月13日(月)から10月22日(金)
- 3 応募資格** 塩谷広域圏内に住む18歳以上の方で、ごみ処理行政に理解と見識を持ち、会議に出席することができる方。
- 4 応募方法** 塩谷広域圏内各市町環境衛生担当係及び塩谷広域行政組合窓口にある「応募申込書」記入のうえ、塩谷広域圏内各市町及び塩谷広域行政組合まで提出してください。 ※郵送可（10月22日必着）  
※塩谷広域ホームページからも「応募申込書」がダウンロードできます。
- 5 選考方法** 書類選考とします。
- 6 問い合わせ先**

|           |              |
|-----------|--------------|
| 矢板市環境課    | 0287-43-6755 |
| 塩谷町環境衛生担当 | 0287-45-1118 |
| 氏家町環境課    | 028-681-1126 |
| 高根沢町環境課   | 028-675-8109 |
| 喜連川町環境衛生係 | 028-686-6613 |
| 塩谷広域行政組合  | 0287-48-2760 |

「ニュースレター」及び「ごみ処理行政」に対するご意見・ご提案をお気軽にお寄せください。また、塩谷広域行政組合のホームページも開設しております。

※ホームページアドレス <http://www.shioyakouiki.or.jp/>

問  
い  
合  
わ  
せ  
先

329-1572 栃木県矢板市安沢3622番地1

塩谷広域行政組合

TEL 0287-48-2760

次期ごみ処理施設整備担当 阿久津・鈴木・印南  
FAX 0287-48-0463